

平成21年度第4回定例会

日 時： 平成22年1月27日（水）午前10時～

場 所： 本館 講座室

- (会長) 図書館協議会を開催する。
- (委員) (新委員の挨拶)
- (会長) では継続協議の「多摩市における中央図書館機能およびその整備のあり方について」、配付した答申の素案にそって協議する。
(各委員、素案の黙読)
- (会長) 大きな柱の「1. 中央図書館の必要性」からみていく。
- (委員) 「4. 中央図書館の施設・設備・規模」に基本的な考え方として、「**文化都市多摩ニュータウン(多摩市)**」の図書館が入っているが、総論としての構えを出した方がいいかと思う。この答申のエッセンスになるよう、最初にこれをもってきて、そのあとに各論に入っていくような構成の方がいいのではないか。
- (会長) その方が、具体的なイメージが描きやすいか。
- (委員) パルテノン多摩の側であることはイメージアップにつながる。
- (委員) 最初にインパクトがあり、それを受けて細かく話が出てくるとわかりやすいかと思う。
- (委員) はじめに「**図書館は、市民の誰もが利用できる施設**」と書いてあるので、図書館の必要性について書き、そのあとに「**図書館は、市民の誰もが利用できる施設**」といった方がインパクトがある。文章がばらばらなので整理した方がいい。「**多摩市にも中央図書館を望む**」というのは最後かと思う。削除する部分など、細かいことがたくさんある。
- (会長) このもとになっているのは委員の意見であり、それを張り付けた作業であるので、姿勢としては委員の意見は網羅されているが、統一性は欠けているというのが、素案の形である。
- (副会長) 最初のフレーズの「**中央図書館は、このまま、5年、10年と延びられるのでなく**」の前に、「平成10年の答申から12年何もなく」と補った方が、より5年、10年という意味がわかると思う。
- (委員) 「**徐々に第一線から**」の文章と「**また子育て中の若い世代**」の文章と逆にした方がいい。
- (委員) よくまとめたと思うが、もう少しそぎ落としてまとめ、すっきりさせた方がいい。
- (会長) 大きな柱の「2. 中央図書館の役割と機能」について移る。
- (委員) 2の②から④は、消してあるのか。

- (会長) そのように考えた結果だが、この中で答申に入れた方がいいものは、あるか。
- (副会長) ①から④については、平成10年の答申の項目なので、そこにあげてあるが、②の自動車図書館の運行について現在なく、③、④については「資料」としてひとつの新しい柱としてまとめた。
- (委員) 大きな柱のイメージが重なっているかと思う。「必要性」と「役割」、同じようでもそぐわない気がする。
- (副会長) 区分けの作業をしてみて、「必要性」「役割」「機能」は重複しており、具体的には入れてみたが、整理しきれていない。平成10年の答申のタイトルどおりに使うのか、それも含めて検討した方がいい。
- (会長) 4ページの「**古本の買い入れのほか、市民にも特定の本の寄贈を呼びかける**」ことについて、図書館では具体的にしていることはあるか。
- (事務局) 特定の本について、行政・郷土資料や人気のある本は、ポスターや図書館報で呼びかけしている。
- (会長) 古本の買い入れはなかなか難しい。リクエストやニーズに応え、仕入れていても、何年か後は動いていなく不良在庫となってしまう。そのあたりの選択が難しいかと思う。
- (委員) 私としては、載せて欲しい。
- (会長) 他の自治体の図書館ではいかがか。
- (委員) 調布市は欲しい特定した本を、市の広報で募集している。
- (会長) 市民から、読み終えた本をいただける場合もあるので、それを取り入れることができれば、ニーズに合っとなおかつ経費のかからない方法が可能かと思う。
- (会長) 学校との連携について、学校関係の委員の意見はいかがか。
- (委員) 学校図書館にない本は、学校の司書が図書館から入手できるので、大変助かっている。ある程度は機能しありがたいという部分があってもいいかと思う。「更に発展させてほしい」とすると、今までの取り組みも評価される。学校図書館の一般開放が出ていたが、現実的にはクリアしなければならない問題が多いが、将来的には取り組みもできるといいかと思う。
- (副会長) 学校図書館の開放については、今の蔵書の状態で一般市民に貸出してしまうと、問題が出てくる。十分な検討が必要である。
- (委員) 具体的な表記はしない方がいいかもしれない。
- (会長) 方向性を示す程度か。
- (委員) 構成について、学校のことが前の方に出てくるより、大きな柱の後ろの方がいい。大きな柱を再構成したらいかがか。

- (委員) 順番は2. 中央図書館の役割と機能の(1)「多摩市の図書館システムの中核として」次に(2)「生涯学習を支える基盤整備として」を大きい立場から書き、レファレンス、学校、そして外国語資料をいれるとか、大きいものから書いていった方が分かりやすいかと思う。
- (会長) (2)「生涯学習を支える基盤整備として」について何かあるか。指針を示すようなことができればと思うが。
- (委員) この中の「あらゆる利用者の大切なコミュニケーション、人と人の出会い、結びつきの中」とあるが、図書館としては何かされていることはあるか。
- (事務局) こんにちはと声かけしている。しかし人によっては必ずしも、密にコミュニケーション取ることではない。レファレンスについては、丁寧に対応しているという声をいただいている。職員と利用者という関係だけでなく、利用者と利用者ということでおはなし会や、講座後の参加者へのグループの声かけ、市民が書いた本の著者に、「市民文庫」として講演いただいたりしている。
- (委員) 図書館にはいつも同じ方がいる。ひとりひとり別々に本は見るが、お互いのコミュニケーションや人との出会いは見受けられない。何度も足を運ぶ方に、図書館の応援団になってくれないかと声かけしてはどうか。男の方はなかなか知り合いになったり、話し合われる機会がない。
- (委員) 「生涯学習を支える基盤整備として」の文章で、「図書館は公共施設の中で、最も利用者が多く市民の利用率も高い」ということは、大事なことであるが、多摩市でとった参考の文献などを加え「〇〇のアンケートによると」といった文章を加えると、わかりやすい。
- (委員) コミュニケーションの場というのは生涯学習とイコールではないので、次のページの「誰もが使える図書館としてのサービス」の、「高齢者や小さな子どもを持つ母親、障害がいの方」に利用されやすい施設であるということが、生涯学習を支える基盤ではないかと思う
- (委員) 子どもから大人まで、何か自分で勉強しようとしたときに、基盤に図書館があるということで、生涯学習といっている。図書館は話すよりは本、であると思う。
- (会長) 図書館にいる方を見られて、孤立しているように見受けられたと思うが、男性に対してそのようなサービスの導入は図書館がすることなのかどうか。そういった方向性の中に図書というものが使えればいいのではないか。
- (委員) そのようなコミュニケーションの場としての柱を建てればいいのではないか。生涯学習とは少し違う。
- (副会長) 記述の場所を変える。

- (会長) 次に大きな柱**3. 中央図書館のサービス**に移る。
- (委員) 中央図書館ならではのサービスにもう少し特化した方がいい。
- (委員) 中央図書館を建てる意味は、地域の図書館をバックアップしていく機能が一番だと思うので、それを一番はじめに書いていく。
- (委員) 地域図書館への支援については、こちらにかいた方がいいと思う。
- (会長) 「**図書館は市民の書齋**」も整合性では、ここではないのか。
- (副会長) **学校図書館**のことが出てきているが、ここでいいか。「役割」と「サービス」の内容をどう扱うか。
- (委員) 図書館の重要性を説くときに、立地条件、イメージを膨らませ、それを冒頭に述べ、そのあとは中央図書館の施設・設備・規模について上位に繰り上げ、今までにない特別な機能を発揮できるような性格付けをするように、まとめるといいのではないか。
- (会長) 大きな柱**4. 中央図書館の施設・設備・規模**についてはいかがか。
- (委員) 「**パルテノン多摩があり、その裏に大きな公園があり、その向こうに図書館がある。**」ということは、肢体不自由者が歩くのは大変であり、駅の近くの方がありがたいと思う。
- (副会長) **5. 中央図書館の建設にふさわしい場所**のところにも関連し、「**バリアフリー化を考えると**」の文章にも書いてある。
- (委員) 「**パルテノン多摩があり、その裏に大きな公園があり、その向こうに図書館がある。**」というイメージについて、体の不自由の方には難しいということだ。その表現は「**向こう**」でなくてもいい。
- (委員) 現在の本館という形に固まっていくようであれば、体の不自由な方にサービスがゆき届くような形の手段は書いておくことが重要である。ミニバス等の運行など入れていく。
- (委員) 今までの検討の結果、駅付近は無理であるということになり、この場所のどこかを使うということが全員の認識と想っていたが。
- (委員) 結論として、ここでということまでは書かずに、駅の側が望ましいが、ということを入れて含みを残しておく。
- (会長) 現実的には、ここしかないであろう。補えるような手段をここに載せていくことしか、できないのではないか。
- (委員) 「**本の殿堂**」「**本の家**」「**本の館**」の表現をどうするか。
- (副会長) ここに特定されるようなイメージの表現はいかなものか。
- (委員) リアリティが感じられるようなものがないと、漠然と多摩センター駅付近に中央図書館が必要といっても、行政の政治レベルの討議に入った時に答申の迫力が欠ける。ここに確定することは避けながらも、現実的な路線をイメージさせるようなことは必要である。
- (委員) 「**本の館**」は、「**“緑の森に沈む本の館(やかた)”**」だから生きてい

る。この場合において、付加価値を付けるような意味で表現する方がいい。駅前で「本の館」はそぐわないか。

(副会長) 答申なので図書館でいいかと思う。

(委員) 図書館ということばは重くのしかかってくる気がする。表現は柔らかく、中身はどっしりしたものが価値が高くなる。

(委員) 一般名詞で図書館は使うべきで、最初の打ち出し方としては、文化都市にふさわしい本の館のようなキャッチフレーズ的に使うのいいのではないか。

(委員) 看板ひとつにしても、本の館に向かうようなものにしてイメージを作り上げていく。

(委員) 規模について、「60～70万冊規模の蔵書」とあるが適当な数字なのか。現在の規模はいかがか。

(事務局) 多摩市全体で70万冊くらいである。

(委員) 人口20万都市であれば、100万冊くらいである。

(委員) 将来は100万を目指して、ということはいかがか。

(副会長) では、そのような表現にしたい。

(副会長) 地域館の冊数はどうするか。

(委員) 最大7万とできるのであれば、そのような表記でいいのではないか。

(事務局) 基本は5万であり、つめて7万にしている。

(事務局) 答申について柱の組み立ての順番は、大きな柱、4、5、6、1、2、3の順番でいいか。

(委員) 柱を再構成した方がいい。

(事務局) 周囲の柱は、**2. 中央図書館の役割と機能**は「(1) 多摩市の図書館システムの中核として」「(2) 生涯学習を支える基盤整備として」、(3)として「コミュニティ」ということで出す。

次の唐木田図書館の運営についてコミュニティセンターの中の図書館として開館し、直営を基本とした業務委託を導入する。

(検討の経過の説明、アンケートの報告、資料の説明)

(委員) アンケートは唐木田図書館についてどのように生かしたいかというものならわかるが、部分的な業務委託についてである。中身がわからないままでは判断できない。

平成20年の答申は、大きな柱として「図書館が直営で運営されることが重要である」「専門的な知識と豊かな経験を備えた職員が配置されること」とあり、「終わりに」として、「多摩市図書館協議会は図書館長の諮問機関であり、市民も参加し図書館運営に意見を言うことができる市民協働の場である」と締めくくられている。答申をないがしろにしているか、図書館協議会の存続にもかかわることである。

- (委員) 前回の答申に縛られるのであれば、新しい提言もはずらい。この任期の図書館協議会は、独立した形でやればよいと思う。思いはわかる。直営が望ましいと思うが、メリット・デメリットもあり、実験的にいき、実施してみて市民の反応を調査していけばよいと思う。
- (委員) ここで了解をとるのならよいと思う。図書館協議会で意見を徴することはないということを改めていただきたい。
- (会長) 気持ちはわかるが、図書館が意図して行ったことではない。ないがしろにされたというよりも、時代に合わせた選択肢があるのかと思っている。
- (委員) 状況の報告、説明をしないのか。
- (事務局) きちんとまとまった時点で報告する予定だったが、検討の途中であっても情報はきちんと伝えるべきということになり、検討の報告をすることになった。このことは会長、副会長と調整しながら進めていったことだが、連絡が不足し、誤解を招いた。
- (会長) 付属機関というのは、その都度答えをだしていかなければならない。
- (副会長) 答申は100%取り入れられるとは思っていないが、平成20年の答申は守ってほしいこととして載せた。図書館の委託を検討することは、図書館内部で進んでしまい、報告がなかったのはおかしいと思っている。
- (事務局) 情報提供が遅れたことは謝る。
- (委員) アンケートを取って、今の状況を教えて欲しい。
- (事務局) 検討は終了し、日程は未定だが教育委員会にかける。平成22年度の予算は骨格になると思うので、肉付け予算後までには決定することになると思う。
- (会長) この件について、別に任意の会を開いた方がいいかと思うが。
- (委員) 委託について異論はないが、他の委員で、そのような会を設けて議論した方がいいということであれば、いいのではないか。
- (委員) 討議するなら定例会の中で話した方がいい。
- (副会長) 任意の会であると話ただけで終わってしまうので、定例会でお願いしたい。
- (委員) 図書館協議会として前回の答申のいきさつもあるので、将来的に拡大していくのではなく慎重にやっていって欲しいとして、この件は終了するのはいかがか。
- (副会長) 今回の答申に載せるのではなく、別に委託について議論するべきだ。
- (事務局) 予算もあり、定例会の回数を増やすことはできない。
- (会長) これで終了する。